
デュラボカロ！！

蘿蔔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デュラボカロ！！

【Nコード】

N5962Z

【作者名】

蘿蔔

【あらすじ】

ただいま、ミク、リン、レン、は池袋に旅行に来ていた池袋と言ったらそう年がら年中非日常が日常の町であるそんな街で大丈夫なのかミク、リン、レン！？

ただのごたごた（前書き）

あは！また連載増やしちゃった！！

「」「あは！じゅあなくいよ！！！！！！」」「」

これはユーチューブを見てて

二つの絵をみて思ったことを書くのです！！！！

ただのごたごた

ただいま

初音ミク、鏡音リン・レン、はなぜか池袋に旅行(?)にきていた

「やー楽しみだねえっ!

リンちゃん! レン君! 何があるのかなっ!?

はしゃいだようにミクは言う

「そうだねっ!」

「そうですね!」

《ここからはレン視点で進ませていただきます。ただの作者の趣味です》

やけにはしゃいでいるミクちゃんを先頭に僕らは池袋を観光(?)していた

「わーすごいねえっ!」

ミクちゃんはあたりを見渡して興奮していた

リンは・・・

「かわいいねえ!

名前は? 名前はっ!?

「ほえ!？」

え、とリン、鏡音リン」

「へえ、リンちゃんっていうんすか!

あっちの二人は友達なんすか?」

「う、ううん!

髪の高い娘は友達だけど金髪の子は兄弟だよ!」

「おまえら・・・

その子怖がってんじゃないのか?」

「「そんなことないっすよねー(ないよねー)」」

「うん・・・」

なんかからまれていた・・・リン、・・・

ミクちゃんはまだきよろきよろしてるし・・・

だからMEIKOさんかバカイトかルカさん・・・(いやこの二人は・・・どうかな?)

についてきてもらった方がいいって言ったのにミクちゃんたら

「私一人でもいいけるよ! ほら私お姉さんだし!」

とか言って・・・はあ

もう・・・

と思っていると信じられない光景が目の前に広がった

?あれなに?

人が標識・・・持ってる?

いやいやそんな馬鹿な・・・

そんなことを思っている

リンに話しかけていた女の人

「あーシズシズだー

今日もイザイザ追いかけてるんだねー」

そうだったのでよく見てみると

黒いファーコートの男の人が笑いながら逃げていた

「……追いかけてっこ？」

「いやいや追いかけてっこなんて生ぬるいもんじゃないっすよー
あれは殺し合いっす」

「!？」

いつの間に來たのか分からないが
リンに話しかけていた男の人が僕に向かって話しかけてきた

「殺し合い……ですか……？」

「そうみたいだよーレン！」

「あれってボーイズでラブってるんじゃないの？」

「だから違うって……はあ」

「!？」

いつの間にか皆こちらに来ていた

「それよりあの女の子危ないんじゃないのか？」

ニット帽をかぶった男の指差した方を見ると・・・

まだウキウキ気分のミクちゃんがいた

そういつてる間にバーテン服の男は自販機を持ち上げ・・・黒い
ファークートの男に投げつけた・・・が

黒いファークートの男はそれをするりとかわした
その飛んでいった方向は・・・

ミクちゃんのいるところ

「ミク姉！」「ミクちゃん！」

「なあにい？」

リンちゃん、レン君」

「後ろ！！後ろ！！」

「・・・え？」

なんで自販機？

あははゝ夢？

・・・って

キャアアア！！」

「「「「・・・はあ！？」「」「」

ミクちゃんの行動に投げた本人、逃げている人、見ていた三人は驚いていた

まあ、僕は予想してたんだけどね・・・

ミクちゃんのした行動とは・・・（分かった人もいるだろうが）

そう、ミクちゃんは飛んできた自販機を受け止めたのだ

そしてミクちゃんは自販機を置くと
こっちに向かってきた

「・・・あは・・・」

聞きたいことがたくさんあるんだけど
まずなんで自販機が飛んできたの？」

「・・・」

僕ら二人は何も言わずにある一点を見つめた
金髪グラサンバーテン服の人を・・・

それを察したのかニット帽の人が

「アイツは平和島静雄って言ってな・・・
ものすごい馬鹿力なんだ・・・」

そこの嬢ちゃんもすごいな・・・なんなんだ？

てか、臨也はどこ行ったんだ？」

「「へえ〜」」

「いたた」

「どうしたの？ミクちゃん」

「いや・・・さっき怪我しちゃって・・・」

その言葉のとおりミクちゃんには擦り傷があった

「あーほんとつすねー」

大丈夫っすかー？」

「「「!？」」」

・・・なんでこの人たちは突然現れるのだろうか・・・
そんなことを思っていると自販機を投げた本人が出てきた

「あーすまなかったな・・・怪我大丈夫か？」

・・・あれ？さっきと違う・・・さっきは・・・もっと・・・こう・
怖くて・・・
・・・あれ？・・・ま、いつか・・・

「いいよ」

それにわたし機械だから！」
ボーカロイド

「「「^{ボーカロイド}機械？」」」

「「ちよっ！！ ゆっちゃだめだって！！」」

「えーいいじゃん！！」

私たちはねーボーカロイドなの！ はい！リンちゃんパス！！」

「もう・・・」

ウィキペディアより引用していい？・・・」

「だっ、駄目だよ！

とんでもなく長くなるし、何よりも作者がめんどくさいって！！」

「レン・・・リアルなの出してこないでよ・・・

・・・まあいいや

えーとボーカロイドって言うのは
単純に言えば歌を歌う機械だよ！

おわり！！」

「「「「いやほんとに単純だな！！」」」」

あまりに適当な説明にミクちゃん以外、全員突っ込んだ

「まあ

立ち話もなんだし・・・新羅んところ行くか・・・」

「どこか誰も知らないけど・・・そうですね」

「そうだな」

「」「そうだねー」

「そうっすね」

ただのごたごた（後書き）

いろいろおかしいところがある？ だろう！！

次回！！

作者の書きたかった臨也とミクの喧嘩！！！！

ってことでほかのはこれ終わるまで更新しないです！！

いや・・・もしかしたらするかもです

しない確率の方が多いです！！！！

いやーそれにしてもボカロもいいけど歌い手さんもいいねー
最近は

recogさん

96猫さん

VIP店長さん

大蛇さん

鋼兵さんがお気に入り！！

聞いてみてね！！（宣伝すんな！！）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5962z/>

デュラボカロ！！

2011年12月19日23時10分発行